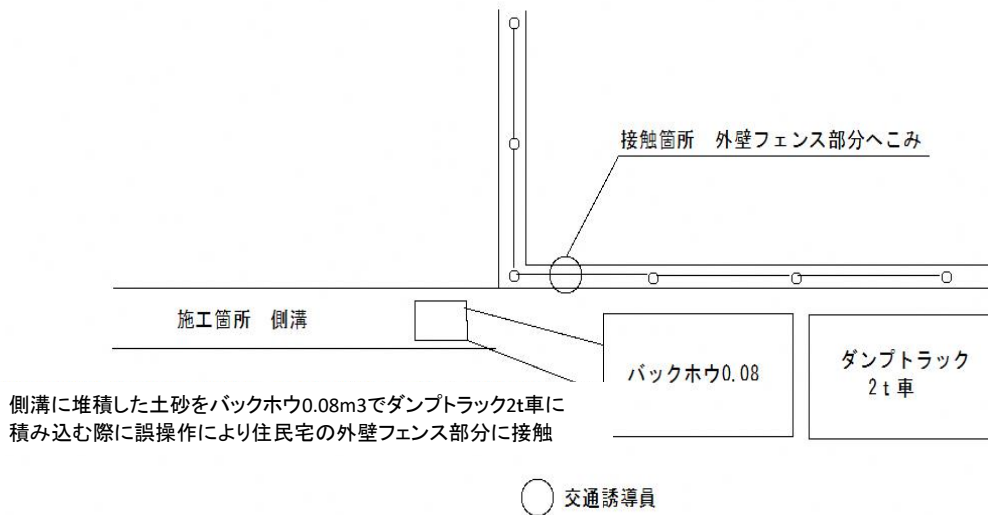


公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和2年11月16日(火曜日)10時15分			工事関係者区分	元請け
事故区分	建設機械等	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	住民宅フェンスの凹み			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	通学路整備工事						
事故概要	バックホー0.08m ³ で側溝内部に堆積していた土砂をダンプトラック2t車に積込際に、誤操作により住民宅外壁フェンスにバックホー0.08m ³ アーム部分が接触した。						
事故原因	バックホーオペレーターの誤操作, オペレーター単独での作業。						
改善策	事故再発防止研修を実施し、バックホウの操作手順の再確認 建設機械作業時の作業指示者の適正配置 第三者の財産近傍作業前の、KY活動の実施						

事故状況図



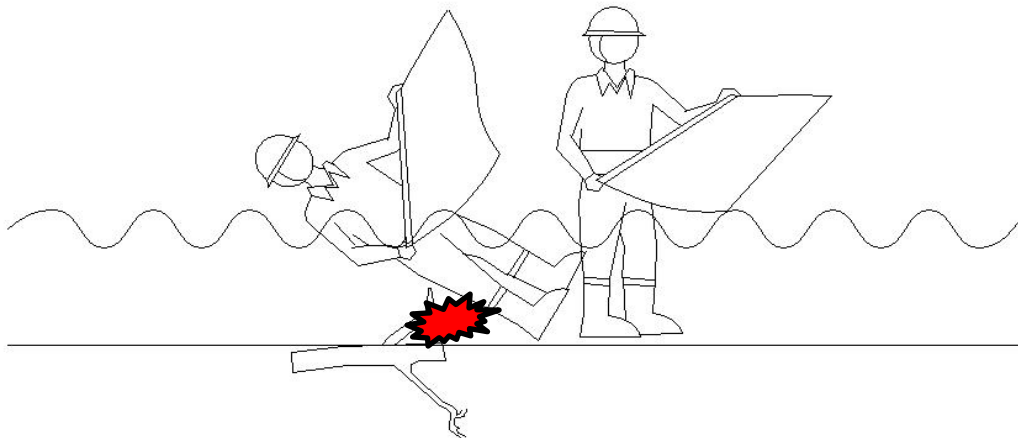
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	令和 2年 11月 4日(水曜日) 10時 50分	工事関係者区分	元請け		
事故区分	転倒	性別	男性	年齢	43	業種区分	土木
被災程度	負傷(右足太腿の切傷)		事故レベル	I	休業見込日数	2	
工事概要	池の中の除草作業						
事故概要	池の中で除草した草を運搬作業中に、池底の泥に足を取られて転倒した際に、水底に埋まっていた枝木に右足が接触し、負傷したものである。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> 作業現場内の視認性が悪い場所に対する事前の安全確認が不十分であった。 作業員に対して安全な作業範囲を明示できていなかった。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 作業範囲内に危険物等が無いかわかりやすく道具を使用して事前の安全確認の実施。 安全確認が完了した箇所に赤白ポールを設置して、安全な作業範囲を視認できる状態にして作業を行う。 						

事故状況図



運搬中に泥に足を取られて転倒し、水底に埋まっていた枝木に接触し負傷したものの。

改善状況図



安全訓練の実施(労働災害について)



作業前の安全点検

公共工事等事故情報

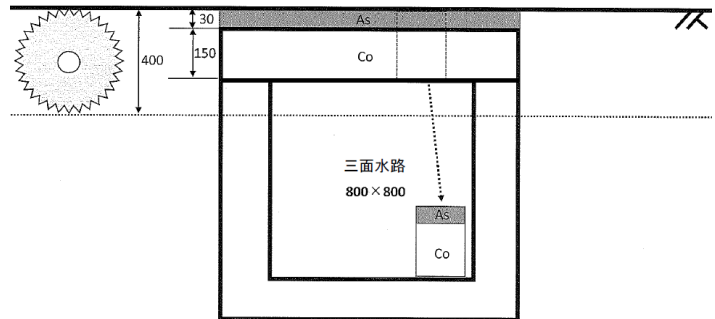
事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和2年11月6日(金曜日)13時15分			工事関係者区分	元請け
事故区分	その他の物損	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	三面水路, 天井スラブ			事故レベル	I	休業見込日数	-
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	路面剥ぎ取り作業時に、アスファルトカッターにより地中の暗渠(三面水路+天井スラブ)天井スラブ面を切断したものの。						
事故原因	設計図書を詳細に確認していればその位置を把握することが可能であったと思慮され、被災した暗渠に対する事前の確認が不十分であったため発生したものと考えられる。						
改善策	安全訓練を行い、再発防止として下記のことを実施する。 ・舗装面の切断作業等を行うにあたっては、施工個所における地下埋設物について事前に十分調査し、現地での位置を確認したうえで着手すること。 ・設計図面(特に地下埋設状況)の社内ダブルチェック、現地には確実なマーキングを行うことなど再確認を行い、事前の確認を十分にすること。						

事故状況図

状況写真



断面図



改善状況図



再発防止に向けた安全訓練を実施

公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	令和 2年11月 6日(金曜日) 9時20分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	挟まれ・巻き込まれ	性別	男性	年齢	32	業種区分	土木
被災程度	右足首脛骨腓骨・骨折			事故レベル	II	休業見込日数	4日以上
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	バックホウの掘削作業監視員の背後から、バックホウのオペレーターの死角となる右側後方に侵入、バックホウが剥ぎ取り作業で、1m弱後方に進んだ際に、被災者の右足にバックホウのゴム製のキャタピラーが接触し負傷した。						
事故原因	バックホウの作業範囲内に立ち入り防止柵が設置されていなかったため、被災者が誤って侵入し事故が発生した。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 作業員が立ち入り禁止区域に侵入しないよう立ち入り防止柵を設置することとした。また、作業機械が移動する際は、作業員全員に合図し、作業員の退避確認後、作業指揮者の誘導に従い移動させることとした。 事故再発防止研修を実施し、安全意識の向上に努めた。 						

事故状況図

・事故状況(再現)

改善状況図

・再発防止研修

研修実施内容

- ・事故の原因及び反省点
- ・再発防止対策の確認
- ・DVDの視聴による安全意識の向上

・安全柵の設置

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和2年11月9日(月曜日) 19時00分			工事関係者区分	元請け
事故区分	転倒	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	自転車のかごの破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	取付管布設工事						
事故概要	取付管の布設完了後、道路使用許可時間の終了までにアスファル合材の手配が間に合わず、縞鋼板により道路開放を行ったが、自転車が縞鋼板の段差につまづいて転倒したもの。						
事故原因	縞鋼板と道路舗装面に段差が生じていたが、舗装擦り付けによる対策を行わなかったため。						
改善策	受注者社内で事故再発防止研修を開催し、事故原因及び再発防止策の考察や安全点検項目の確認を行い、安全に対する意識の向上を図った。仮復旧による道路開放が必要な箇所の施工時間の管理を徹底すること、やむを得ず縞鋼板により開放する際は、監督担当課と協議のうえ、土木工事共通仕様書に基づいた舗装擦り付けを行い、段差・ズレが生じないようにすることとした。						

事故状況図



改善状況図

再発防止研修の実施状況

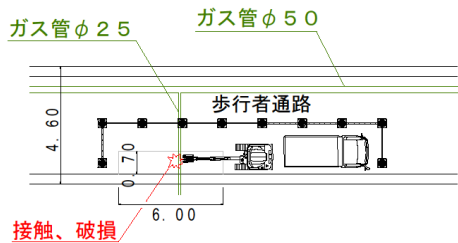


公共工事等事故情報

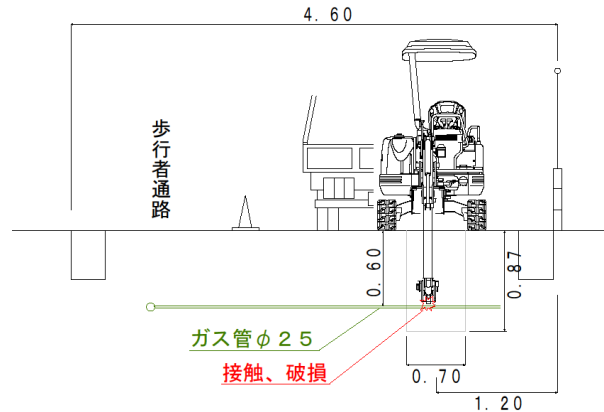
事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和 2年11月17日(火曜日) 9時30分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	ガス管(φ25mm)の破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	地下埋設物(ガス管)の付近を掘削する際に、バックホウ(0.15m ³)で掘削し、バケットがガス管(φ25mm)に接触し破損させたもの。						
事故原因	地下埋設物(ガス管)の付近を掘削する際、地下埋設物(ガス管)の位置を確認しながら、慎重に人力で掘削すべきところを、バックホウ(0.15m ³)で掘削したため。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地下埋設物の付近を掘削する際は、人力で掘削を行い慎重に作業することを徹底した。 ・事故再発防止研修を行い、安全意識の向上を図った。 						

事故状況図

平面図



横断図



改善状況図

事故再発防止研修

研修内容

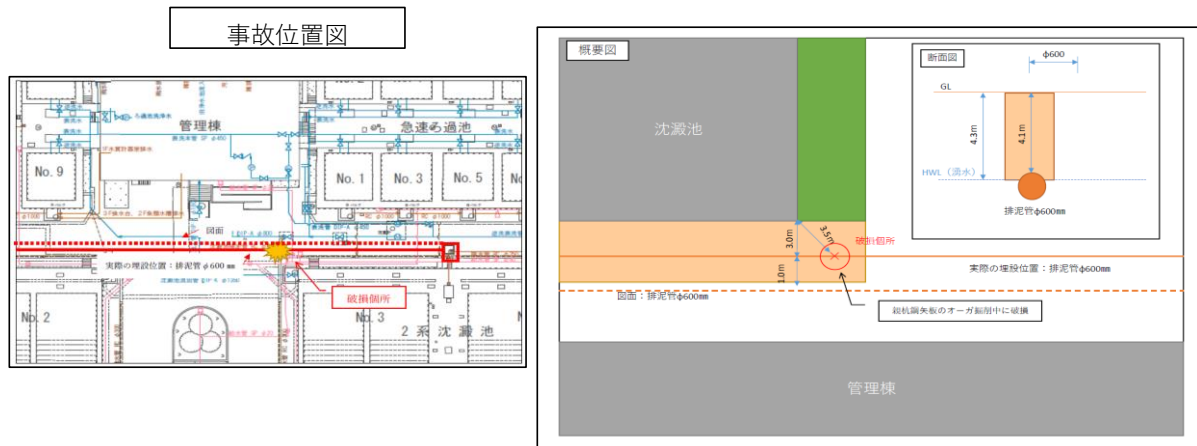
- ・事故の原因及び反省点
- ・再発防止対策の確認



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和2年11月18日(水曜日)13時30分頃		工事関係者区分	一次下請	
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	φ600排泥管破損		事故レベル	I	休業見込日数	—	
工事概要	場内配管工事(開削工)						
事故概要	沈澱池流出管布設用の土留め杭を設置するためのオーガによる掘削作業中に地下約4.3mにあった沈澱池排泥管RC-φ600を破損したもの。						
事故原因	工事に先立ち既存埋設管について管理図(閲覧資料)を基に被災した排泥埋設管の位置を近傍のマンホール内からの現地調査で確認していた。その際、当該管が管理図の記載位置より約1m南側にずれて配管されていることを把握していたが、現地の調査結果が施工の計画図に反映されていなかったため被災した排泥管の法線の上に土留を設置する計画となり、オーガ掘削を行ったもの。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・計画時及び施工前において「仮設計画チェックシート」を基に確認を行う。 1)計画時には、事前の既設埋設管等の現地調査の結果や閲覧資料(竣工図等)が計画図面に反映しているかを確認する。次に、その計画図面を基に、計画場所の埋設物(配管、配線)の位置や深さを現地で確認する。 2)施工前は、施工前に埋設物の位置及び深さ等を現地で確認する。 ・機械のオペレーターは、障害物に当たったら作業を直ちに中断するとともに、現場代理人や監理技術者に報告することを徹底するよう再教育を行う。 						

事故状況図



改善状況図

仮設チェックシート

乙令浄水施設工事 仮設計画 チェック表

計画(配管・埋設物)表

番号	事前チェック項目	チェック結果 計画表 現場調査表	備考
1	事前調査結果を確認したか		
1-1	マンホール調査結果を確認したか		
1-2	読取調査結果を確認したか		
1-3	読取調査結果を確認したか		
2	読取調査結果を確認したか		
2-1	読取調査結果を確認したか		
2-2	読取調査結果を確認したか		
2-3	読取調査結果を確認したか		
2-4	読取調査結果を確認したか		
3	読取調査結果を確認したか		
4	読取調査結果を確認したか		
5	読取調査結果を確認したか		
6	読取調査結果を確認したか		

現場確認 チェック表

事故再発防止策検討会議の実施

再発防止教育実施状況
(R2.11.19)

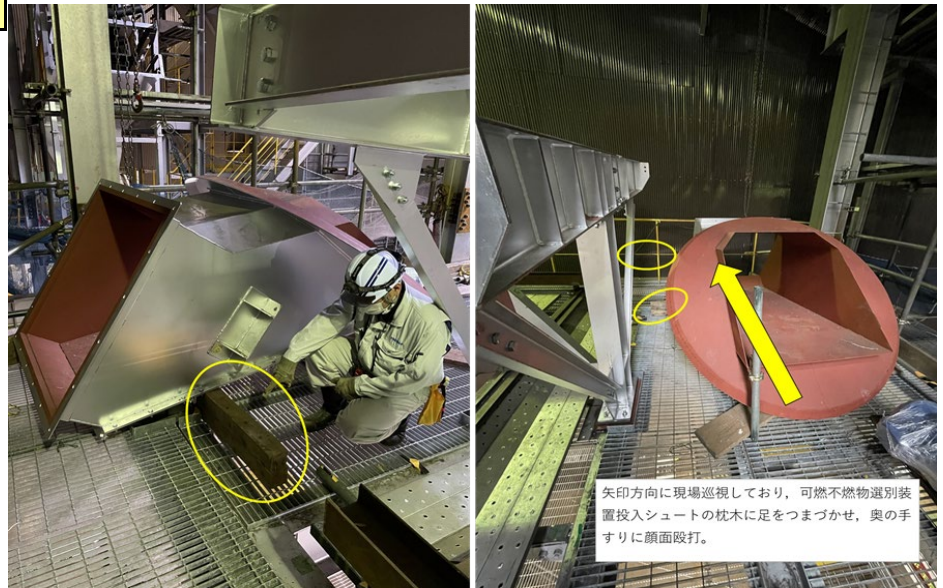
施工前現地確認状況

既設配管施工前周知状況
R3.2月9日

公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	令和 2年11月18日(水曜日) 11時30分			工事関係者区分	元請け
事故区分	転倒	性別	男性	年齢	55	業種区分	設備
被災程度	顔面挫傷			事故レベル	I	休業見込日数	0
工事概要	プラント設備等の更新工事						
事故概要	元請現場監督員が、災害発生場所において、現場巡視を目的とし歩廊上を通行していた。歩廊上に仮置きされていた可燃不燃物選別装置投入シュートの養生用枕木に足を取られ躓いた。躓いた際に、体のバランスを失い転倒した。転倒先の歩廊手すりに顔面を打ち付け被災。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> ・被災場所の歩廊上に資材を仮置きさせていたため、通路が狭くなっており、通路に養生用 枕木が張り出していた。 ・被災者は、通路上の養生用枕木を認識していたが、養生用枕木を跨ごうとした際に足元に注意が向いていなかった。 ・通路に張り出した枕木に対して、注意を促す標識等が取付けられていなかった。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・資材置き場、安全通路の区分け及び区画整備を実施。 ・注意喚起を促す標識の設置を実施。 ・安全講話を実施。 						

事故状況図



改善状況図



公共工事等事故情報

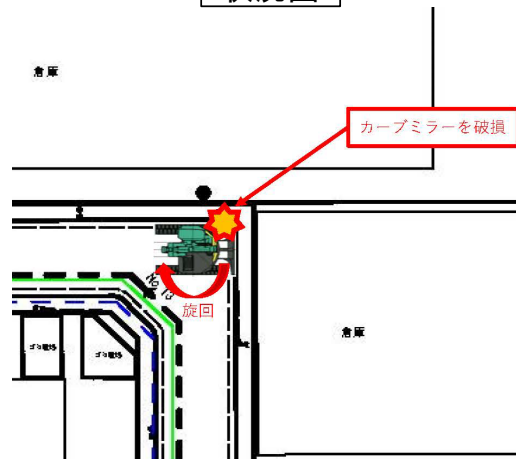
事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和2年11月20日(金曜日)16時40分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	その他の物損	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	カーブミラーを破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	管布設工事						
事故概要	バックホウ旋回中に、付近に設置してあったカーブミラーを破損させたもの。						
事故原因	バックホウ運転時に周囲の安全確認を怠っていたことが原因と考えられる。						
改善策	安全訓練を行い、再発防止として下記のことを実施する。 ・バックホウやダンプ等の運転の際、死角となる範囲については、安全確認及び指示を徹底すること。						

事故状況図

状況写真



状況図



改善状況図

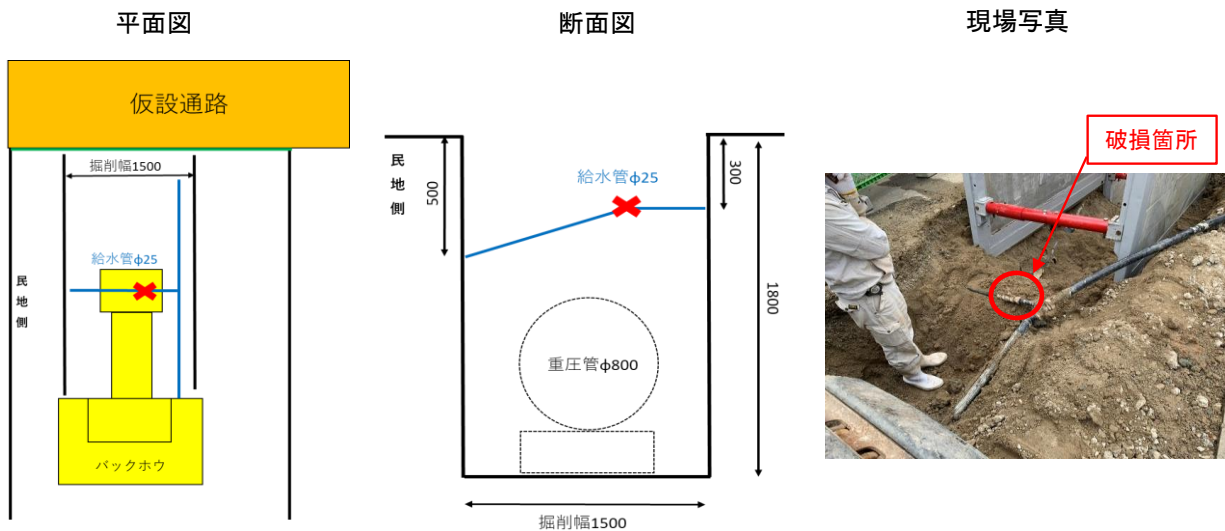


再発防止に向けた安全訓練を実施

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和 2年11月27日(金曜日) 14時30分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	給水管φ25の破損			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	—
工事概要	道路改良工事						
事故概要	重圧管φ800の施工時に掘削していたところ、バックホウにて給水管φ25を破損させた。						
事故原因	給水管の深さについて、事前に深さ50cmと聞いていたが想定より浅い30cmのところに埋設されていた。 給水管付近の掘削については、人力で慎重に行うように現場代理人より指示を行っていたが、バックホウ運転者を含めた作業員全員に上手く伝達できておらず、注意不足により給水管を破損させた。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 地下埋設物調査等の資料により埋設箇所や位置の再確認。 埋設物箇所には位置や深さをマーキング。 作業当日に埋設物付近の掘削がある場合は、朝礼で作業員全員に注意喚起を行う。 埋設物付近を掘削する際は、早めに人力にて慎重に行う。 						

事故状況図



改善状況図

マーキング状況



朝礼状況



人力掘削状況



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和 2年 11月30日(月曜日) 10時00分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	断水1件			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	道路拡幅に伴う污水管渠の布設及び側溝の布設						
事故概要	污水管渠布設に伴い掘削を行っていたところ、バックホウにて給水管φ20を破損させた。						
事故原因	安全教育訓練にて、当該箇所に給水管φ20が布設されており留意して掘削するよう下請業者に指示を行っていたため、作業当日における朝のKYミーティングで再度指示を行わなかったことが原因であると考えられる。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地下埋設物の位置について路面マーキングし、再度関係作業員に周知を行った。 ・掘削作業を行う際は、朝のKYミーティング時に関係作業員全員により埋設物の有無を確認し、有る場合は位置等について現場確認を行った。また、地下埋設物付近の掘削作業にあたっては、断面内の埋設物を人力掘削で事前に露出確認した。 						

事故状況図



給水管破損状況(遠景)



給水管破損状況(近景)

改善状況図



KYミーティング状況



人力掘削作業状況